

邁な理念が先行して出てきた案でもありません。その辺の流れを理解していただきたくてずいぶん長い話を書いてしまいました。(本当はもっと書きたいことも沢山あるのですが。)

計画を成功に導くことが出来なかった私が言うのもおこがましいことですが、私は法人化することは難しいことではないと思います。また法人化したからといって目に見える違いがすぐに期待できることもないでしょう。しかしこの道を進まない限り CIF ジャパンの将来が危ぶまれるのです。ですから法人化はメリット・デメリットの基準によっては判断しにくいものだと思います。この際会員のみならずさまに考えていただきたいことは、自分自身が CIF ジャパンと法人化された会の中で何が

出来るか、何をしたいかお考えいただくと、役員会としてもとてもありがたいのではないのでしょうか。私自身も CIP 参加者の中では2番目に古い(1964年)参加者になってしまい、体力のこともあります。そんな中でいつも心の内に聞いている言葉があります。それはヘンリー・オーレンドルフ博士が本当にごく稀に特別の機会にのみ喋られた言葉です。それを引用させていただきながらこの拙文を終わらせることにいたします。

「自分は救われたのである。この救われた生命を人々の安寧と平和、そして若者たちの未来のために役立てない手はないじゃないか！」

## CIF 創立50周年記念シンポジウム(ハンブルグ)本年8月開催について

本年8月27日(金)～29日(日)、ハンブルク市(ドイツ)において、現地で1960年に創設されたCIFの50周年を記念するシンポジウムがCIFドイツ支部主催で開催されます。参加申し込み締め切りが4月30日となっていますので、参加をご希望の方は至急にお申し込み下さい。インターネットから申請書をダウンロードしてメールで申込みができます。

<http://www.cif-germany.de> をお開き下さい。

- ・参加費(宿泊・食費込み) 280ユーロ 前泊は別途1泊85ユーロ
- ・オプション・ツアー: 閉会后8月29日～9月1日、ハンブルグ～ベルリン往復、詳細はホームページの案内をご参照ください。

### ◇シンポジウムの概要

- ・創設メンバー、CIFの始まりと発展経過、社会参加への努力の跡を振り返る。
- ・国際ソーシャルワーク50年の回顧と分析
  - 1) CIF/CIPプログラムによる国際研修プログラムの効果と持続性について
  - 2) 数十年にわたる各国CIF支部の創設と発展をたどる。
- ・ハンブルグにおけるソーシャルワーク活動の見学
  - 1) 市内見学: 都市開発の要所見学、ハンブルグのソーシャルワークの歴史探訪
  - 2) CIF創設地(Stintfang)及びヘンリー・オーレンドルフ博士の旧居住地訪問
  - 3) ハンブルグ港内のポートツアーによりドイツの移民問題に目を向ける。
- ・30ヶ国から100名の老若参加者による再会と体験交流の実施。

## 2010年度 CIF ジャパン総会のご案内

日時: 2010年6月19日(土曜日)午後1:30～5:00頃まで 場所: 東京都内